# 特集　地域のみんなで考えよう！ 弘前市のりんご

## りんご生産量日本一の弘前市

青森県産りんごの約４割、国産りんごの約２割が弘前市で生産されています（2019 年時点）。りんごは、地域経済にさまざまな波及効果をもたらす重要な基幹産業の一つで、「市の木」にもなるほど私たち市民にとってなじみのある存在です。

弘前市にりんごがやってきたのは明治８年。東奥義塾の米国人宣教師ジョン・イングが、生徒たちにりんごをごちそうしたのが初めてといわれています。明治新政府の政策により、当市にもりんごの苗木が配布され、明治 10 年には、青森県で初めて旧藩士の屋敷畑で３個のりんごが収穫されました。以来､病害虫などの被害に遭いながらも、先人たちの熱心な研究と努力により、りんごの栽培は進歩と発展を続けてきました。

近年、りんごの販売額は堅調に推移し、農林水産省が発表する市町村別農業産出額（推計 2017 年）でも、りんごを含む果実部門において、弘前市は全国的にも突出し、約 341 億円と第１位になっています。



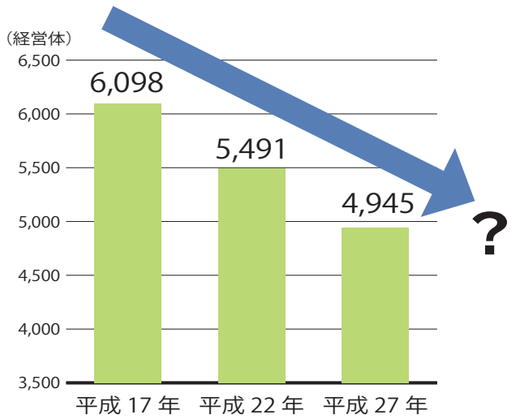
## りんご産業の課題

市にとって大事なりんご産業も、労働力不足や後継者の減少をはじめ、さまざまな課題に直面しています。

これまでは、生産者の技術や努力によって生産量や栽培面積を維持してきましたが、りんご生産の担い手は着実に減少しており、このまま人口減少が進んだ場合、弘前市の「りんごづくり」自体の存続が危ぶまれる恐れがあります。

### りんご生産者の減少

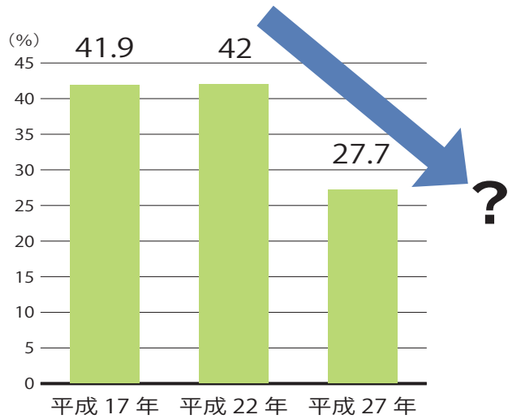
りんご作付経営体数の推移




出典：農林業センサス（2005 年～ 2015 年）

### 後継者の減少

同居農業後継者がいる農家割合（販売農家）の推移




出典：農林業センサス（2005 年～ 2015 年）

### さらに…　りんご黒星病の発生

追い打ちをかけるように、平成 30 年にはりんご黒星病が大発生し、生産者はりんごの品質と生産量を維持するための対応に追われました。

りんご黒星病のまん延防止については、薬剤散布と同時に、耕種的防除（越冬落葉の除去、すきこみ、被害葉・被害果の摘み取り）が効果的と言われていますが、人手不足から耕種的防除に取り組むことが難しいといった声が多くあります。

### りんご黒星病とは

カビにより生じる植物の病気。感染すると、主に葉や果実に病斑（黒い斑点）が生じます。

病斑から発生する胞子が二次感染を引き起こし、対策をしないとさらに被害が広がっていきます。

▲果実の病斑　ⓒりんご研究所

▲葉の病斑　ⓒりんご研究所